

福岡県

防災講演会 （災害ボランティアセミナー） 開催報告



令和2年11月25日（水）、JR博多シティ会議室大会議室にて福岡県、福岡管区気象台と当協会主催による「福岡県防災講演会（災害ボランティアセミナー）」が開催されました。冒頭に主催者を代表して、福岡県総務部消防防災課課長補佐 酒谷陽右氏が挨拶し、続いて福岡管区気象台長 梶原靖司氏による「激甚化する気象災害から身を守るために」と題する講演と公益財団法人熊本YMCA副総主事 神保勝己氏による「withコロナ時代の災害支援ボランティアの働き」と題する講演が行われました。最後に主催者を代表して当協会理事長 原田正司が閉会の挨拶を行いました。

基調講演

13:40～14:40

激甚化する気象災害から
身を守るために

福岡管区気象台長 梶原 靖司氏

地球温暖化に起因する気候変動の極端化により、残念ながら大きな被害が続いており、警報が発令される前に自助共助により自らの命を守る一早い行動がカギと指摘し、気象台としても防災情報をただ伝えるだけでなく、関連する諸団体と連携して、主体的に「どう伝わっていくか?」「どう活用されるか?」という点に関し、日々改善に向けて取り組んでいる姿を丁寧に参加者に説明されました。



PROFILE

気象予報官として予報・警報の作成・発表に携わる。平成25年、予報部業務課で特別警報の創設に携わった。平成29年度から気象庁予報部予報課長。平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風などで記者会見を担当、情報の力で防災・減災に貢献したいとの思いを強く抱いている。令和2年4月から現職。気象大学校卒。日本気象学会九州支部長。

基調講演

14:50～15:50

withコロナ時代の
災害支援ボランティアの働き

公益財団法人熊本YMCA

副総主事 神保勝己氏

「withコロナ時代の災害支援ボランティアの働き方」について、令和2年7月球磨川流域での災害支援活動を通じて日本国内で初めてwithコロナの災害支援の最前線に立たされ、苦労された状況を豊富な写真、資料等でわかりやすく解説されました。被災地は、高齢化が進みコロナの感染リスクも高いため、住民の意向を重視し関連団体（行政・NPO・ボランティア、住民等）と連携して、感染リスクを抑え込んだ様子を説明されるとともに「平時からの備え」や「住民の自治力をどう形成していくか」の重要性等に関し、熱心に講演をしていただきました。



PROFILE

平成2年に公益財団法人熊本YMCAに入職、青少年教育部、国際協力部の部長等を経て現職。平成23年東日本大震災、平成24年7月九州北部豪雨等で支援活動を行う。熊本地震では熊本地震災害対策本部長として避難所運営の管理、調整、支援、等を統括。令和2年7月豪雨では熊本YMCA災害支援活動の統括として新型コロナウイルス感染症への対応に取り組みながら避難所運営、ボランティア活動の後方支援を行う。